

## 意義深き神戸總會の盛況

— (昭和12年11月12日) —

今秋、關西方面に防空演習が開始された翌日——11月21日、神戸市に於て、本年度の總會は華々しく開かれた。恰も時局と演習の緊張氣分を漲ぎらせて、——この日13時頃、會場に集つた會員達の顔振れを見れば、神戸市附近の在住者は改發副會長を始め10數名の會員は勿論のこと、大阪より來神した會員も亦約10數名、これに、京都より應援した會員は、山本會長を始め多數あり、これに遠く高知より、又和歌山より參會した會員もあつて總員約40名の盛況である。本年の神戸に於ける總會は神戸支部強化の第一意義が唱へられ、これに本部は勿論、大阪支部、京都支部(京星會)、甲南支部、紀伊支部、高知支部等々が足踏み高く出揃つて聲援した態であり、天文協會員氣質が一堂に和合して眞に愉快である。神戸支部幹事の方々の盡力も目覺ましい。聽て、霍部幹事の開會の辭あつて、先づ自己紹介が始つた。實直な人、洒落を云ふ人、等々……この日、豫定の海洋氣象臺見學は都合によつて、不許可となつたため、西森氏は海洋氣象臺の實見談をなす。時に射手座新星發見で令名を上げた岡林氏が來場し、早速新星發見當時の元氣な體驗談を聽く。この頃から總會氣分が濃厚となる。日本海員協會々長宮本吉太郎氏が講師として臨場さる。15時講演が始まる。宮本氏の演題は「海洋と人生」で、同標題の單行本が會員一同に配布された。二十餘年間海上にあつて、太平洋に觀た大自然の印象は正しく崇高な宗教的體驗であり、人間生活を支配し、日本國民の大精神に合致するものであると論じ、海洋が國民に齎らす抱負を語り、海國日本の使命を教示された。次いで、山本會長は「恒星の天文學」の題下に、大海原はこの天上の宇宙であり、地球と云ふ船が、定められた航路である軌道を運行し、我々は航海者であると云ふ巧みな宇宙論が始まり、航海術と天文學の共通性を述べられ、古代の遊星天文學の意義と近代恒星天文學の發展を語り、過去を回顧して再認識する天文學の本來の眞意義を強調された。何れも講演は稀に聽く意義深い結論を與へられて終つた。氣が附くと屋外は降雨、宵暗が迫る頃、一同記念撮影を終へて席を更めた。この間暫し別室には理事會が開かれて、本協會の非常時對策が協議されたらしく、聽て、總會評議會に移り、次の如き本會の重要事項が可〔第86頁へ續く〕

大陸を偲ばせた。これは砂漠地方の橙黄色や海と呼ばれる森林地帯の青灰色に對し眼の覺むる様な鮮やかなコントラスを示してゐた。

運河——この地區の運河は殆んど全部太く所謂ロ１エル派のものは見られなかつた。只ニロケラスが二本に見え(但しダブル・キヤナルとは別)略並行してルナエ湖へ走つてゐた以外タナイス、ガンデス、イスタ1等の比較的太い淡い運河が見えた。(未完)

### 神戸支部例会

昭和13年1月8日18時

神戸市元町四丁目 大丸食堂にて

#### 〔第103頁より〕

決された。

1. 會計報告がなされた結果、非常時物價騰貴等による經理運轉上の支障を補ふべく、明年度より會費の改正案が提出され、種々評議の後、賛成の動議あつて満場一致可決せられ、(年額4圓)

2. 理事欠員補充として、荏部進氏を満場一致にて選出可決せらる。

かくて18時頃、會員一同食卓を圍むこととなり、この時、會長演説に入り、山本會長により本協會の將來進むべき方針等の談話あり、やがて、有志は懇親晚餐會を開き、和氣は堂に満ち、時の經つのも忘れた。茲に各々神戸支部の發展を祈念しつつ、意義ある時局下の總會は盛宴裡に滞りなく、終了を告げて行つた。

附記：總會開催に當り、豫てより準備及び當日の庶務に盡力されし、神戸支部幹事の方々の御厚意に深く感謝致します。(事業部)